

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1996. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 144

日本野鳥の会 埼玉県支部

双眼鏡の手入れと選び方

なるほど なるほど！！

先日の探鳥会で、「双眼鏡などのレンズを拭いてあげますよ」と言ってくださった会員の方がいます。新部泰治さんです。伺ってみると光学機器のメーカーにお勤めで、実際に双眼鏡などをつくっているとのこと。

そこで今月号は、日頃私たちがお世話になっている双眼鏡について、その使用上の注意や保管、および、選ぶ際のポイントを教えていただきました。随所に、いかにも、といったお話が出てきますよ。
(編集部)

使用上の注意や保管

精密製品ですので、**ショック等与えない**ように十分に気をつけて使用して下さい。もし落としてしまった場合は、レンズやプリズムのバリはずれ等のチェックが必要となります。落下防止のためにも、ネックストラップを掛けての使用をお勧めします。

レンズの汚れに注意。手で触れたり雨水等の水滴をつけないこと。飲食物をこぼさないこと。会話中に唾を飛ばさないこと。唾が一番拭き取りにくいのです。

水中に落としたときは、レンズ、本体とも手早く拭き、チェックを兼ねての修理に出して下さい。

防水設計の製品といえども、水濡れには気をつけてください。濡らした場合は、早く拭き取り、自然乾燥させて下さい。ただし、加熱乾燥等は禁物です。

海岸等で使用し、**長時間潮風に当てた**場合は、固く絞った濡れ布巾等でボディを拭き（レンズの拭き方は後述）、乾燥させて下さい。

保管の際は、必ずレンズキャップをつけ、本体にもほこり等が付かないようにして、風通しの良い壁などに掛けておいてください。箱などに乾燥剤を入れての保管も良いのですが、乾燥剤をこまめに交換し、常に水分を吸収できる状態にすることが必要です。とにかく、密封状態にして長く置くことが、最も悪い保管方法です。これはカメラの場合と同様です。内部にクモリやカビを発生させなければ、いつまでも使用できます。

しょっちゅう鳥見に出かけ双眼鏡を使って

いれば、その心配はありませんね。

しかし、対物レンズの方から覗いて、少しでもクモリを見つけたら、拭き取りの修理に出してください。もしそのまま放置し、強いクモリやカビに進行してしまうと、そのレンズやプリズムは交換するしかなく、修理代も高くなります。

次に**レンズの拭き方**です。

プロは溶剤として、エーテル9にメタノール1くらいの混合液を使用します。拭き布はサラシ、または専用のペーパーです。

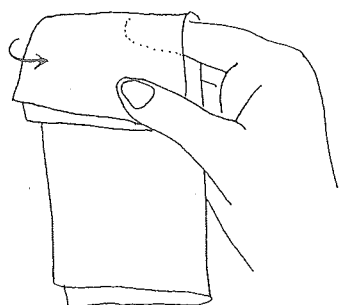
エーテルやメタノールは余り市販されてないでしょうから、薬局でエタノール（エチルアルコール）を求め代替としてください。100mlで400円ほどです。拭き布はサラシ（使いふるしたものほどよい）を、洗剤分を取り除くため10～15回ほど水で濯ぎ、よく乾燥させてください。ペーパーはティッシュペーパーでも良いのです。拭く前に、レンズに付着しているゴミや砂ボコリをブローアで完全に拭き飛ばしてください。レンズ表面のコーティングを傷つけないためです。

いよいよ本拭きです。サラシを図のように折り、エタノールをつけ、ゆっくり拭いてください。ティッシュペーパーなら3枚重ねを同様に折って使用してください。綿棒を使用する手もあります。

エタノールをつける量は、1回分0.3ml程です。それで、レンズの表面を2回転ほど拭いてください。2回転ほど拭いたら、拭き布のエタノールをつけるポイントをずらして同様に拭いてください。

拭くスピードは、径40mmで1回転3～4秒

サラシの降り方(斜線の部分にエタノールをつけて拭く)



位です。力かげんは、普通は50g程、汚れのひどいときは500g程の強い力でこすっても大丈夫です。キッチンメーターを人差し指で押して力かげんを覚えてください。

さらに丁寧にされる方は、ブローの後、本拭きをする前に、まだ残っているかもしれないゴミや砂ボコリを取るために、やや多めのエタノールをつけて、レンズの表面を軽くひと拭きしてから本拭きしてください。

また、指の先で鼻の頭をさわり、脂分のついたところで擦って(いったん汚れますが)、拭き取るとききれいになることがあります。これで拭き取れないものは諦めてください。

なるべく急激な温度変化も避けてください。

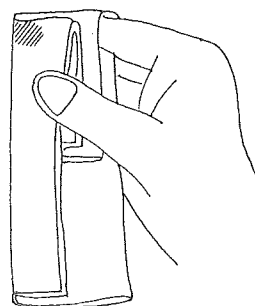
寒い戸外から暖かい室内へ入るときなど、そのままですとレンズ表面が結露し、曇って見えなくなります。それを防ぐためには、入る前にセータなどでくるみ、中間温度になじませてください。

結露してしまった場合は、それからあわててケースに入れたりせず、そのままに放置し、結露が自然に消えるのを待ったほうが良いでしょう。ただ、結露を繰り返すことは、内部の取れないクモリや腐食の原因にもなりますので注意してください。

購入の際のポイント

双眼鏡には右図のように主な性能が表示されています。8×は倍率、30は対物レンズの有効径(mm)、8°は視界です。そして有効径を倍率で割った値をひとみ径といいます。こ

8×30
Field 8°



の場合は、 $30\text{mm} \div 8(\text{倍}) = 3.75\text{mm}$ です。この値が大きい程明るく見やすい双眼鏡といえます。

また、人間の瞳孔は、昼間の明るい所で3mm前後です。ひとみ径が瞳孔より小さいと小さい穴から覗くようになり見づらく感じます。4mm前後は欲しいところです。

倍率は、教科書通りにやっぱり7×からせいぜい10×まででしょう。有効径は30mmから42mm程度でしょうか。それ以上ですと大きく重くなり、携帯性に不便を感じるでしょう。

ロングアイポイント(ハイアイポイント)はお勧めです。接眼レンズと目との距離が長くなる用に設計しているため大変見やすく、ゴム目当を折り曲げることにより、眼鏡をかけたままでも視野を狭くすること無く、見ることができます。

また、ロングアイポイントのものは、全視野で見やすいようにレンズ設計がなされ、高品質の硝材が使用されたものが多く、全ての性能でも優れているものが多いので、選ぶ目安としてください。

生活防水や完全防水の製品もお勧めです。雨天に見るためばかりでなく、外気の湿気を吸って発生するクモリやカビを防ぐためです。

長年愛用するなら、プラスチックより金属の部品が多い製品をお勧めします。

あとは、なるべく探鳥会に数多く参加し、そこで先輩の話を聞き、実際に見せてもらい、自分の手にじっくり馴染む操作しやすいものを購入してください。(新部泰治)

オオタカ Goshawk

タカの王者、オオタカは、ハイタカ属の中で最も大きく、翼を広げると130cmもあるところから、大きいタカ（大鷹）、または、その背、翼の上面の青みのある色合いから『あおたか（蒼鷹）』と呼ばれるようになりました。学名の *Accipiter gentilis* は、『ハイタカ属の高貴なタカ』の意であり、まさに適切な命名と言えましょう。

英名の Goshawk は、このままでは何の意味ありませんが、語源は Goose Hawk—すなわち『Goose を捕るタカ』というほどの意味のものが、次第に発音に変化が生じて、Gooshawk—Goshawk となったものと思われる。

なお、頭に Northern（北方の）をつけて、Northern Goshawk とすることもあります。一般的には省略して使われます。

ハイタカ属のタカは精悍で、最もタカらしいタカといわれ、小回りの利く巧みな飛翔と激しい攻撃的な性格を持っています。餌は、キジやヤマドリのようなかなり大型の鳥類をはじめ、スズメ、ムクドリなどの小型なものにも至ります。

この大空の王者オオタカの保護運動を尻目に、密猟をする不心得のものが後を絶たないのは、嘆かわしいことです。われわれの力の結集で、断固として守っていきましょう。

地鳴きコーナー

いわき海岸探鳥会

島田恵司（鴻巣市）

冬の花鳥を見たくて参加しました。

朝5時起床。テレビで天気予報を見て、晴れとのこと。先ず一安心して、集合地上野駅に行く。常磐線に乗り、最初の目的地、勿来の関に向かう。諸先輩の鳥のお話を伺っているうちに、あっという間に到着しました（約3時間30分）。

勿来の関ではビンズイ、シロハラが出現。林道を下り、海岸に着きました。いきなりオオセグロカモメのお出迎え。とは言っても、セグロカモメと区別ができません。次に、岩場にウミウが数羽。フィールドガイドでは背面が緑色のはずが、ただ黒く見えるだけです。波間にヒメウが1羽。これは、ウミウより小さく、くちばしが黒色なので、納得できました。

勿来港の桟橋では、顔に化粧したシノリガモが3羽、シンクロナイズドスイミングを披露。息もピッタリ水中遊泳。

背後にチュチュン、チュチュンとハクセキレイが飛ぶ。ふと見ると、イソヒヨドリがこ

っちを向いて、手を振っている。亘理さんがシロカモメ発見。頭の中がカモメの水兵さんになった1日目でした。

新舞子ホテルでの懇親会は、鳥をみるくらい好きです。皆さんの個性的でユニークな自己紹介。自分が何を話そうか、困ってしまいました。自然があって、鳥がいて、人がいて、たまには集まって酒を飲んで楽しむ、ずっと続けて行きたいと思います。

2日目は、薄磯海岸です。ウミアイサ、カンムリカイツブリが出現。今朝見た時より近くに、クロガモの姿が大波小波の間に見え隠れ。どうにかくちばしの黄色を確認でき、もう船酔いしそうです。

トンネルを抜けると、塩屋崎の灯台が見えてきました。波打ち際にセグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメの軍団が、見送りに来てくれました。ここでやっと見分けられるようになり、大満足。

他のバードウォッチャーと出会わなかったいわき海岸、大変良い所ですね。

リーダー並びに諸先輩の皆様、大変お世話になりました。他の探鳥地でもよろしく。

柳瀬川探鳥会での工夫
中村治（上福岡市）

探鳥会はいつでも初心者参加を歓迎しています。しかし「敷居が高い気がして」「ベテランばかりの所へ自分のような初心者が」といった声が後を絶たないのも事実。これではいけないと、若手リーダーの間で、「探鳥会に出たいけれど決心がつかない症候群（以下便宜上初心者）」限定の探鳥会をやらうとの声があがりました。

役員会では、「今でも初心者を対象にしている」「ベテランが参加できないのはどうだろうか」「他の探鳥会が、初心者を受け入れていないと思われてしまうのでは」という意見はあったものの、基本的には皆が賛成。結局「今回は特に初心者向き」とすることで、2月12日の柳瀬川探鳥会が決定しました。

内容にもひと工夫。柳瀬川名物だけど、距離が遠いタゲリは切り捨て、近くに見えるカモをメインに据えることにし、K君がワークシートを作り、Yちゃんが画用紙にカモの絵を描き…と、下ごしらえ。

当日は、神様っているのね、と思えるような穏やかな天気。20数名のうち初参加の方も5名ほど。嬉しかったのは、「決心がつかない」症候群の人が、しっかり参加してくれたこと。ああ、良かった良かった。

絵やワークシートを使いながら、カモを中心にのんびりじっくり見ていただきました。鳥合せの前には、本日の目玉？「カモのパズル」の登場。ジグソーパズルのようなものですが、参加者に挑戦していただき、「誰が作ったの（下手ねー）」という声もある中、交雑個体も生まれず、5種類のカモが無事完成しました。

終わってみれば、反省する所もおおいにあ

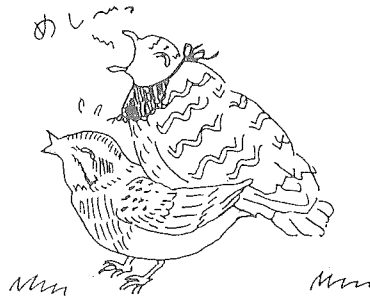
りますが、やはり初心者対象の探鳥会は必要のようです。「探鳥会には出たいけれども…」という方の声をお聞かせください。柳瀬川探鳥会に参加された方のご意見もお待ちしています。

会えました!!
松永匡子（富士見市）

2月25日の玉淀探鳥会、あこがれのカワセミに会えました。対岸で…橋のすぐ下の岩の上で…!!

と一っつもしあわせな一日。いいえ、いまだに至福が続いています。家人への気持ちがやさしくなります。

4～5日ごぶさたのタゲリちゃん、まだいてくれました。旅立つ日まで会いに行けるかなあー。



この冬は一度もジョウビタキを見ませんでした。宮崎では毎日見ていたので寂しいです。

お正月にコウノトリを見ました。津屋崎という海沿いの市からの帰りに、車の窓から見たのですが、あれは絶対にコウノトリだ!と信じています。山口あたりに飛来してきたと新聞に載っていましたしー。

押川歳子（福岡県福岡市）一カットもー

表紙の写真

エナガ（エナガ科）

毎年冬になると山に行きます。主にカラ類が目的です。

シジュウカラを筆頭に数種の鳥たちが混群をつくり、助け合って行動している姿を見ると、とても爽快な気持ちになれるからです。

その中でエナガは、控えめであまり目立たないけど、やさしい表情がとても好きです。

1996年2月 栃木県内にて
500mm F4 1/60 RVP

宇憲昭良（草加市）

ありがとうございました バードソン1995

事前にミーティングを3回、下見を2回。多くの皆様にPRをお願いして回り、当日1週間前の石戸宿探鳥会におしかけて、豚汁とヤキトリで出陣式までやってしまった。あとはなんとかなるさと、ドライバーの中島郁夫本物青年をのぞくと熟年青年からなるチーム『リブラン・リフレッシュ彩のくに』（キャプテン：桜庭勇、広報担当：高松格、探鳥担当：佐藤進、記録担当：新堂克浩、ゼネラルマネージャー：中島康夫）は、当日を期したのでありました……。

10月10日、一番電車に乗るべく起床。ところが雨。にもめげず、怪しい探鳥隊員は5時45分JR蓮田駅前に集合。中島青年運転のワゴン車に肅々として乗り込んだ。

6時黒浜沼着。即探鳥スタート。早朝雨中にもかかわらず、すでに3人のサポーターが活動中。しかし、なぜかここの定番のアオサギやバンがいない。先は長い。早々に黒浜沼をあとにして、久喜昭和池（周辺かけ足15分）経由で渡良瀬遊水地に向かう。大利根橋でシラコバトを確認して19種目。

8時30分、渡良瀬遊水地の谷中湖到着。煙雨中、ここでもサポーターが活躍中。新赤間橋方面も探り、18種を加え37種となった。しかし、トリが少ない。目標65種にはほど遠い。下見とは様子が違う。気を取り直して、熊谷市の大麻生に転進。

東武鉄道の花崎駅で、ゴールの準備のため浦和に向かう中島マネージャーと別れ、11時30分、秩父鉄道の大麻生駅着。雨のため定例探鳥会を中止したにもかかわらず、ここでも10数人の人々が迎えてくれた。直ちに押切橋方面から明戸堰に。期待した林の中は、雨に

よる葉の揺れと雨音で苦戦。それでも、エゾビタキ・オオタカなど12種を加えた。

13時30分、大麻生の人々と別れ、大宮の深作川遊水池経由で浦和に向かう。ドライバーは昼食抜きでひたすら雨中走行に専念。深作周辺で3種追加。

最後のポイントは、浦和の三室。ここではバードソン特別探鳥会が開催されて、リブランの方も含めて20数名の人々が待っていてくれた。16時前到着。

芝川でオオヨシキリを追加。この頃やっと雨はあがりかけたが、すでに暮色濃く、16時30分、探鳥打ち切り。結局不本意ながら合計53種。郷土博物館内で賑やかに支援オークションと打ち上げの手締めが行われて、印象深い一日が終わった。走行距離約200km。

観察種53種は公式チーム32組中の26位とご期待に添えない次第となったが、チームメンバーの中にビタリ賞を獲得したニクイご仁もいたことが、その後判明した。

ところがなんと、募金額は566,270円で3位、募金応募者数は238人で2位、総合では8位入賞と、皆様方のご協力は見事に実を結んだのです。

昨年に引き続きご賛助いただいた株式会社リブランさん、現地や支部事務局でご支えくださった方々、募金でご協力くださった皆様、まことにありがとうございました。

〔観察種〕カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、バン、コチドリ、イカルチドリ、アオアシシギ、クサシギ、イソシギ、タシギ、ユリカモメ、シラコバト、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、オオヨシキリ、エゾビタキ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（53種）

（報告：新堂克浩）



雨の三室で記念撮影

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市 石戸宿定例探鳥会

期日：4月7日(日)

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口。集合後、タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、吉原、榎本、内藤、永野(安)、永野(京)、川那部

見どころ：会員にはなったけれど、探鳥会にはまだ一度も…。そんな方にぜひお勧めしたい石戸宿です。お花見とB・Wの欲張り企画。鳥のさえずりをBGMにお花見弁当の味はまた格別！

浦和市 民家園周辺定例探鳥会

〈見沼ヘルシーロードコース〉

期日：4月7日(日)

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、さぎ山記念公園行き8:14発、または大崎園芸植物園行き8:25発に乘車、急仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、笠原、楠見、工藤、桜庭、新堂、高松

見どころ：あっちへ行っても、こっちを見ても春全開、花満開の見沼周辺。そんなホンワカしたヘルシーロードを、渡ってきたばかりの鳥たちとの出逢いを楽しみに歩きます。

浦和市 秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月14日(日)

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー(集合後、バスで現地へ)

担当：楠見、伊藤、小林(み)、笠原、嶋田、羽石、倉林

見どころ：この地はいつ来ても面白い！ その中でもとりわけいいのはこの時期だ。鳥の種類も多く色とり鳥だ。サギも大中小のそろいぶみプラス夏羽のアマサギ。さあ!!出かけてきませんか。

熊谷市 大麻生定例探鳥会

期日：4月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車

担当：森本、小池、中島(章)、和田、田口、石井(博)

見どころ：今年もニューナイスズメは来てるかな？ いつものところで探します。後は、堤の桜がまだ咲いていて、SLと一緒に見られれば言うことなし。

滑川町 武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：4月20日(土)

集合：午前9時30分 森林公園南入口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乘車、終点下車

費用：参加費の他に入園料390円、子供80円

担当：内藤、岡安、吉原、榎本、石井

(幸)、佐久間、長谷部、藤掛
見どころ：春たけなわ、快い季節になりました。冬あれだけいたカモの仲間も北への旅に出て、沼はカイツブリの一人天下？ 春眠暁を覚えずなどと言わずに、青空の下で自然を楽しみましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：さくらが葉桜になって、冬鳥もコガモ達を少し残して去っていく。三室は新緑の季節を迎える。コチドリ、イワツバメが初夏のはしりを知らせてくれる。

『しらこぼと』空づめの会

とき：4月27日(土) 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月28日(日)

集合：午前9時30分 物見山駐車場

交通：東武東上線高坂駅西口より東武バス鳩山ニュータウン行き8:56、9:12発に乗車、大東文化大学前下車。バス進行方向へ徒歩約5分

担当：内藤、岡安、吉原、榎本、立岩、岡野、藤掛

見どころ：新緑の中を歩いてみませんか！ 渡りの途中の夏鳥や、昨年の秋に見送ったサシバの帰郷が見られるかもしれません。是非おでかけください!!

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月28日(日)

集合：午前8時15分 東武伊勢崎線春日部駅西口、東武バス1番バス停前(集合後

バスで現地へ。8:28発→東光園下車)
または、午前9時15分 アスレチック公園前駐車場

担当：吉安、篠原(東)、入山、橋口、中村(栄)

見どころ：若葉の緑がすがすがしい季節。屋敷林や斜面林では渡りの途中の夏鳥を求め、田植え間近い水田ではシギ・チドリの仲間を探して歩きます。身近で見られる鳥見て楽しいですよ。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日(月・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、グラウンド入口

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：5月5日(祝・日)

集合：午前8時50分 JR高崎線本庄駅北口
午前8時55分発十王バス新伊勢崎行乗車、坂東大橋南詰下車。現地集合可

解散：午後1時頃

担当：町田、小池(一)、林(滋)、中島(章)、和田、倉崎、新井、堀

見どころ：土手の向こうには薫風いっぱいの子魚。今年も来ましたコアジサシ。あとはツバメチドリだけ。関東広しと言えども毎年必ず来てくれるのは、坂東大橋、ここだけですぞ。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(日)

集合：午前9時15分 京葉線南船橋駅前

交通：JR武蔵野線 武蔵浦和8:11→南浦和
8:14→南越谷8:26→終点下車

担当：杉本、篠原(東)、中村(治)

見どころ：干潟名物、初夏の鳥紅葉です。赤く色づいたシギ・チドリがずらりとならんでいます。是非どうぞ！

長野県 白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月11日(土)～12日(日)

集合：午前7時30分

JR高崎線本庄駅南口階段付近(通常の探鳥会集合地とは違います)

交通：往復とも27人乗り観光バス利用

費用：18,000円の予定(バス代、1泊2食付き宿泊費、弁当代、保険料、懇親会費)万一過不足は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：22名(申し込み者多数の場合は抽選)

申し込み：往復葉書に住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、町田好一郎まで。
で。切りは4月14日消印まで有効。

担当：町田、小池、岡安、兼元

見どころ：久しぶりのバスツアー復活。宿は『にはめの一步』。残雪の白馬三山をバックに、渡って来たばかりのオオルリ・キビタキ・コマドリなどを探鳥。その上、森林浴と温泉浴が同時に満喫できます。往復のバスの中でも「野鳥のビデオ」いっぱい。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

東京都 三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月17日(金)夜行～19日(日)

集合：17日20時 JR山手線浜松町駅(東京駅寄り改札口前)

帰着：東京港に19日19時20分ごろの予定

費用：23,000円の予定(1泊3食、往復船賃〈特2等船室〉、保険料等)。万一過不足は当日精算。他に島でのバス代若干。

定員：20名程度(先着順、支部会員優先)。

申し込み：普通葉書で榎本秀和

まで。乗船名簿記入のため住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を必ず明記してください。

担当：榎本

見どころ：島と海と鳥の旅。去年は、船の欠航により中止となりましたが、リーダーは気を取り直して今年も頑張ります。船上探鳥もおおいに期待しましょう。

注意：17日は船中泊(ごこ寝)、18日は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

長野県 戸隠筋・高尾山探鳥会(要予約)

期日：5月25日(土)～26日(日)

集合：25日午前10時、JR長野駅改札口前

交通：特急「あさま1号」(上野7:00→大宮7:22→高崎8:10→長野9:51着)または普通電車(高崎7:13→長野9:27着)

費用：10,000円の予定(1泊3食、現地バス代、参加費、保険料など)万一過不足は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申し込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、菱沼一充まで。

担当：菱沼(一)、北川、岡安

見どころ：5月は小鳥たちが生を謳歌する季節。オオルリ、コルリなど青い鳥の姿を求め、初夏の高原を散策します。また、キビタキ、クロツグミなどの野鳥の囀り、オオジシギのディスプレイフライトなど盛りだくさん。夜は例年どおり手打ちそばと地酒と野鳥ビデオ。

注意：宿は男女別相部屋です。個室のご用意はできません。



ヒヨドリ(菊川和男)

行事報告

12月24日(日) 年末講演会

参加: 102人 講師: 松田輝雄



恒例の年末講演会。今回は松井支部長や本部の園部さんのご努力によって、NHKアナウンサーの松田輝雄さんをお招きすることができました。松田さんのお名前のお陰で、心配していた今大会も一杯の参加者があり、賑やかでした。第1部は、恒例の海老原事務局長の独断(?)による「今年の支部の出来事」で、毎年ながらすばらしく、笑いが絶えませんでした。第2部は松田さんの話で、曲がり角にある探鳥会の考え方に示唆がありました。定点観測、人を中心とした考え方に教えられるものがありました。第3部は松田さんを囲んでの楽しいパーティーでした。(楠見邦博)

1月14日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
コガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハ
ジロ オオタカ ハイタカ ノスリ チョウゲン
ボウ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
ス(38種) 風もなく静かに晴れわたった朝。大沼
は水面のほとんどが凍結し、カモ達が氷の上にた
たずんでいる。土地改良工事中の大沼だが、カワ

セミや小鳥達は今日も元気に姿を見せてくれた。

(榎本秀和)

1月15日(月、休) ガン・カモ一斉調査

ボランティア: 33人

石井 智、石井幸男、伊藤芳晴、榎本秀和、海老
原敦子、遠藤 薫、神場真文、小池一男、小池順
子、小荷田行男、駒崎政雄、佐久間博文、篠原東
彦、菅原信行、菅原三恵、鈴木正明、鈴木悠司、
高草木泰行、田代富士夫、田邊八州雄、手塚正義、
内藤義雄、中村 治、福井恒人、藤掛宮子、藤掛
保司、町田好一郎、三田長久、森本國夫、森本陽
子、柳原正昭、山部直喜

1月21日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ オシドリ マガモ
カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ
イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ
アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ
カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) 朝霧も
はれ、絶好の探鳥会日和。スタート直後にアオゲ
ラとバツリ出会う。河原ではオシドリ夫婦とご
対面。対岸では、イカルがさえずり、「光の春」
を感じているのだろうか。カシラダカなど、数こ
そ少ないが冬鳥はオールキャスト。今回はチビ
コの参加が多く、最後の「カモクイズ」で大活躍
でした。(小池一男)

1月21日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 14人 天気: 晴

コサギ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ キ
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
バリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワ

ラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種)
 雑木林でカケスが4~5羽じっくり姿を見せてくれ、みんな感激、満足する。メジロもゼリー状になった柿の実をさかんに食べているところを間近でじっくり観察できた。人家の近くでジョウビタキも出現。冬田ではタヒバリが盛んに採餌していた。林の中は少し寒い、日向は暖か。サイクリングコースのメイン道路は少し風がある。期待のタゲリは出ないが、キセキレイ、ハク、セグロの3種が公園の池で出てくれた。(吉安一彦)

1月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 40人 天気: 快晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ
 ホシハジロ キンクロハジロ ヒドリガモ コジュケイ キジ バン タゲリ イソシギ タシギ
 セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
 セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ
 ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
 カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 新年初めての探鳥会は、快晴。楽しい探鳥会をやろうと挨拶。少人数のいい探鳥会でした。あちこちで探鳥会が行われて、行きたいところへ行くのはすばらしいことだ。三室はこれからも「普通の鳥」を心優しく見る探鳥会にしたいものです。今年10月に150回目の探鳥会を迎えます。

(楠見邦博)

1月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 16人

赤塚義正、荒木恒夫、江浪 功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、角田真喜子、佐久間博文、富田執久、新部泰治、原田 譲、藤野富代、藤原まゆみ、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎

1月28日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 27人 天気: 快晴

ゴイサギ コサギ チョウゲンボウ コジュケイ
 キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ツグミ
 ウグイス コガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ
 アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
 カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 去年は雪で中止だ

ったが、今回は雲一つない快晴となった。今シーズンは冬の小鳥が少ないということで心配であったが、瀧の宮神社ではアオジ、シメ、メジロ、ゴイサギなどが見られて幸先の良いスタートだった。唐沢川は相変わらず、セキレイ類の個体数が多い。川は以前よりも汚くなった感じがするが、カワセミが初めて見られた。仙元山公園はやはりカラ類が少なく、いつもより淋しい。最後になって、ようやく混群に出会えた。(菱沼一充)

1月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 30人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ
 カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ
 ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ トビ
 イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ
 アオゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 河原で工事中の所があったため、コースを変更し対岸を歩くことにした。逆光で少し見づらい面もあったが、カワセミや7種類のカモを近くでじっくり見る事ができた。同じ場所でも対岸に変わっただけで別の探鳥地のようだ。こちら側から見てばかりいないで、あちら側から見ることも必要だなあ。(長谷部謙二)

2月3日(土) 大宮市 花の丘公園

参加: 26人 天気: 快晴

カワウ オナガガモ チョウゲンボウ キジバト
 アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ
 シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
 ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 無風・快晴の中、第1回目(昨年は雨で中止)の探鳥会が行われました。開始早々、ジョウビタキ、カケスの歓迎の挨拶に皆大喜び。花の丘公園の中は工事中のため、周辺の西新井の森を歩く。アオゲラ、アカゲラ、シロハラ、アオジ等にも会えて、皆満足の様子でした。公園の中も段々と整備されてくるので、次回より色々の草・花にも会える楽しみがあります。乞御期待。

(櫻庭 勇)

連 絡 帳

■評議員会に出席

2月17日(土)～18日(日)の2日間、都内渋谷区に全国の支部から代表者が集まり、第17回評議員会が開催されました。当支部からは、海老原美夫副支部長が評議員として、小林みどり幹事がオブザーバーとして出席、平成7年度事業報告案と決算見込み、平成8年度事業計画案と予算案、役員選出などの討議に加わりました。

引き続き開催された拡大評議員会全体会議では、当支部が提案した評議員制度の見直しに関する議題を中心に話し合いが進められ、今後新たな動きが予想される展開となりました。テーマごとに議論を深める分科会では、小林みどり幹事が、第3分科会「普及活動」で会議を進行し、意見を取りまとめる座長をつとめました。

■楠見監事が本部の役員に就任

評議員会の席上、当支部の楠見邦博監事が本部の監事として選出されました。任期の3年間、主に経理の面から財団法人日本野鳥の会の活動をチェックし、指導する手腕が期待されます。

■兵庫県支部が震災報告

評議員会での報告によれば、平成7年1月現在の会員1,136名の内、被災を受けたことが明らかなのは、全壊48名を含めて、合計319名。平成7年3月以降の退会は119名。その内、明確に被災による退会、他支部への移籍は12名。

義援金・見舞金は合計195件2,573,696円にのぼり、事務局移転費用・備品購入・被災状況確認葉書代などに1,493,014円を支出し、残金1,080,682円は、同支部編集『六甲山の野鳥』を発行して、被災会員への見舞いと被災地域の小学校へ贈りたいとのことでした。

ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

■ボイスカウトで講演

2月18日(日)、大宮市のソニックシティ小ホールでボイスカウト埼玉県連盟大宮地区主催BP祭が開かれ、約450名の子供達を前に、山部直喜編集部長が「身近な野鳥」をテーマに講演しました。

■またもや、ごめんなさいコーナー

3月号6ページ、英名講座中のImpressionはImpressionの誤り、4ページのマナヅルの写真は逆さまでした。英名の方は見落としていたが、写真は、校正の時はちゃんとしていたのに、おかしいなあ……。

●4月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土) 普及部会議(4時から)

13日(土) 編集会議(1時から)

20日(土) 校正作業(1時から)

27日(土) 袋づめの会(1時から)

●会員数は

3月1日現在2,722人です。

活 動 報 告

2月3日 普及部会議(探鳥会予定など)。

2月11日 3月号編集会議。

2月17日 校正作業(海老原美夫、工藤洋三、山部直喜)。

2月18日 役員会議(司会:新堂克浩、5月～8月の行事予定・その他)。

編 集 後 記

これまで自転車操業で何とかやりくりしてきた「野鳥情報」のページですが、創刊以来144号にして初めての休載です。噂どおり野鳥が少なくなったのか、県内で鳥を見る人が少ないのか、見ても情報を寄せてくれないのか、なぜか野鳥情報が少ないので、今月は充電の月にします。2ヶ月に1回というのも、ノンビリできて悪くはないかな……。

(藤原寛治)

『しらこぼと』1996年4月号(第144号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用